



# 平成 20 年度事務事業評価表(公共事業用)

事務事業名		担当 部課コード	050400	TEL	2998-9146					
事業コード 050417	し尿処理施設整備事業		環境クリーン部廃棄物対策課							
開始年度 平成 15 年度 → 終了年度 平成 24 年度		部	グループ	施設整備担当						
事業の種別	<input type="checkbox"/> 土地利用 <input type="checkbox"/> 土木建設 <input checked="" type="checkbox"/> 建築	<input type="checkbox"/> 補助	<input checked="" type="checkbox"/> 単独		<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度					
根拠法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例									
分野別計画・指針	一般廃棄物処理基本計画									
関連・類似事業	污水管渠布設事業(下水道建設課)									
総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	4節 廃棄物・リサイクル	中柱	3 し尿処理の充実	小柱	*****		
	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 4 位		実施計画における位置づけ… H19 A H20 A							
行政改革大綱における行動計画への位置づけ										
事業開始の背景		所沢市単独公共下水道が荒川右岸流域下水道に平成24年度当初に接続替えになる予定であることから、今まで浄化センター内で処理を行っていた、し尿及び浄化槽汚泥を単独で処理することができる施設の建設が必要となる。								

② 事業の概要	
目的(何のために行うのか、具体的に)	
公共下水道未整備区域等で発生するし尿及び浄化槽汚泥を生活環境の保全上支障が生じないように処理するため。	
事業開始後の環境変化(人口推移等の社会経済情勢の変化、自然環境の変化等)と対応	
人口の推移及び下水道普及率等に变化が生じていることから、情勢の変化を加味した建設・維持管理コストを検証する。	
事業の具体的な内容及び実施方法	
内容	計画 し尿及び浄化槽汚泥を処理するため、処理水の下水道排除基準値を満足した「し尿処理施設」を平成23年度までに建設しH24年度 当初より稼働する。(平成24年度進入路整備及び近隣建物影響調査(事後)を行う予定。)
H19	し尿処理施設基本計画及び基本設計の策定を行った。

③ 事業の推進状況	事業の進捗率(%)							総事業費(予) (千円)
	～平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	終了予定年度	
	事前調査 精密機能検査	し尿処理施設基本 計画及び基本設計	実施設計及び生活 環境影響調査等	工事発注及び近隣 建物影響調査	工事	工事	平成 24 年度	1,361,150
解決すべき課題とその対応策								H19までの事業費 累計(千円)
近隣住民へ施設の建替えに向けた説明を行い、理解と協力を求めていく。								20,650

④ 経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)	
	当初予算		1,093	16,901	37,556	
	決算(見込み含む)		962	11,342		
	正規職員人件費	0.27 人	2,484	0.53 人	4,979	※「財源内訳」について平成19年度のみ、当初予算の内訳となっており、「正規職員人件費」「公債費」はふくみません。
	公債費					
	事業費合計		3,446	16,321		
財源内訳	一般財源		3,446	16,321	37,556	
	国・県支出金					
	受益者負担金					
	市債					
	その他					
市民一人当たり(単位:円)			10.2	48.1		

⑤ 指	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H 20	将来目標
	成果分析	事業進捗状況	目標値	精密機能検査	基本計画及び基本設計	実施計画及び調査等	施設建築
			実績	精密機能検査	基本計画及び基本設計	実績値の拡大を図る1	実績値の縮小を図る2
%			達成率	100.0%	100.0%		

⑥ 一次評価	評価項目	評価内容		
	妥当性	事業の優先度・緊急性 生活環境に支障を及ぼさないように、し尿及び浄化槽汚泥を単独で処理できる施設が必要である。		
	効率性	事業実施手法の効率化及びコスト削減の取り組み し尿処理施設基本計画の策定を行い、「汚泥再生処理センター方式」から「脱水希釈方式」に方針を変更したことにより施設規模の縮小等の見直しを行うことが出来たため、大幅にコストの削減を図っている。		
効果・便益	事業に要する費用と効果(便益)の比較 必要な施設であるが先細りするため、建設費・維持管理費を抑えることで、効果をあげることができる。「し尿処理施設」を整備することにより下水道未整備区域等においては、下水道が整備されるまでの間、生活環境に支障を及ぼすことなく、し尿及び浄化槽汚泥を処理することができる。			
H 20	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)		時期(いつまで)
⑦ 二次評価	目標設定	「し尿処理施設基本計画及び基本設計」を基に、実施設計を完成する。	平成21年度より工事着手を予定していることから、今年度中には実施設計を完了するとともに、関係各課と工事実施に向けた協議・調整を行う。(下水道維持課・浄化センター・都市計画課)	平成20年度末
	事業計画の見直し必要性	<input type="checkbox"/> 見直しの必要有り ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し ⇒	理由 下水道の未整備地区がある限り、当面し尿処理施設は必要となる。	
⑧ 外部評価	事業実施方法の見直し必要性	<input type="checkbox"/> 見直しの必要有り ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し ⇒	理由 し尿処理は市の責務であり、下水道普及が完了するまで「し尿処理施設」は必要となる。	
	し尿の事業費見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要有り⇒( <input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 )	<input type="checkbox"/> 見直しの必要無し	
評価理由	処理方式の変更により大幅なコストの削減を行ったが、今後のし尿処理量の減少が見込まれることから、建設費や維持管理費の節減に向けて今後も研究していく。			
評価日	平成20年5月1日	記入者職氏名	廃棄物対策課主幹 宮岡 照雄	

⑦ 二次評価	事後評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
⑧ 外部評価	事前評価	部内優先順位… 3 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度	<input checked="" type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
⑨ 環境基本計画	評価理由	県による荒川右岸流域下水道への接続替えに対応する事業であり、そちらの進捗状況を把握するとともに、今後のニーズの変化も考慮して効率的な運営が可能な施設の検討を進めるべきと考えて、総合評価は「改善・効率化」とした。						
	評価理由	予算については、一次評価で総事業費については減額とされたが、新年度の単年度では事業の進捗状況から考えて現状どおりとした。						

⑧ 外部評価	《外部評価の実施》	H19 <input checked="" type="checkbox"/>	H20 <input type="checkbox"/>	【下記は平成19年度に実施した評価及び対応です。】
	評価	近年の例から、適正な説明や手続きを経ないことによる事業の中断もあり得ることに留意し、事業地の選定理由や周辺への配慮を含む計画の妥当性について十分な説明を行うなど、住民の理解を図ること。・現在の構想では危機管理の視点が抜けているようだ。災害時にはし尿処理が大きな問題となることを踏まえ、危機管理セクションとの連携を検討された。		
対応	「し尿処理施設」とは、下水道未整備地区を対象として整備するものであることから、災害に備えて施設規模を拡大することは建設費及び維持管理費の増大となり、現在の財政状況では考えにくい。また、現状の敷地を考えた場合非常に困難であるため、本来の目的である下水道未整備地区を対象とした施設整備計画とする。しかし、施設の耐震性の確保及び稼働時間の検討などについては、現状の中で出来ることについては危機管理セクションと今後も検討していく事とする。			

⑨ 環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り	計画コード	323		
施策体系	3-2資源循環の促進	施策の方向	3-2-3廃棄物の適正処理		